

わか草

東京都立東部療育センター
 院内報 第4号
 東京都江東区新砂3-3-25
 電話 03-5632-8070
 印刷 東部療育センター
 年4回 発行



さらに質の高い療育をめざして
東部療育センター 療育部長 保坂 つや子

「この四月から東部療育センターで皆様とご一所させていたいております。」

早いもので半年になろうとしています。当初、一日も早く入所している利用者様のお名前やお顔を覚えたい、療育部職員一人ひとりと療育について話し合い信頼関係を築きたいと焦っていました。

職務に就きまもなく療育サービスを提供する上での様々な課題があることに気づきました。看護職員の離職率の高さもその一つです。対策を見出すのに苦慮した日々もありました。そんな時、いつも元気を分けてくださったのが入所している利用者様やご家族でした。病棟を訪問すると、澄んだ瞳やその表情で私を受け入れてくれたと言ってくれました。また、看護長をはじめ療育部職員の真摯に職務に就き、看護・療育に臨む姿と、各部門の皆様からの温かい励ましの声でした。

当センターの運営理念は全国重症心身障害児(者)を守る会の基本原則である「もつとも弱いものをひとりももれなく守る」を基礎にしています。「わたしたちは、心身に重い障害のある人たちの生命と人間としての尊厳ある人生を支えるため、各部門一致協力して四つの理念で業務を遂行する。」と前段で宣言しています。センターの職員一人ひとりが、この理念のもと日々の療育をお互いに協力してよりよいものとするよう実践しています。

東部療育センターは今年で二年目を迎えました。

診療報酬の改定や昨年施行された自立支援法など、医療・療育の現場は変革のさなかにあります。また、看護師不足が社会問題となつていきます。東部療育センターでも看護職員の定数確保は大きな課題です。今

いる職員一人ひとりの医療・療育にかける思いをしっかりと受け止め、課題を明確にして定着できる環境整備をしていきたいと思つています。そしてまた、利用者様やご家族が「東部療育センターで良かった」と言っていただけのように、昨年よりは今年、また、三年後、五年後を見据えて療育の工夫をしていきたいと思つています。

さらに、日々、厳しくもいきいきと利用者様と職員が、共に楽しさで満ちた東部療育センターとして発展できるよう療育の質向上にむけて、皆様と共に力を尽くしていきたいと考えています。



3西病棟 花火



みずみずしく実るトマト
 (かもめ分教室前のベランダにて撮影)



2階西病棟 花火

各部署の紹介

庶務係

センターの事務室部門の一つに庶務係があります。係長、システム担当主査、主任一名、係員二名（現在一名欠員です。）の五名体制で、利用者様のお世話をする職員の皆さんの採用、給与の支給、健康保険や年金、税金の納付などの人事・給与事務、センター全体のお金の管理を行う予算・決算事務、電子カルテ・療育支援システムの運用・管理事務、センター全体の消防計画の策定、消防訓練や消防設備点検等の安全管理事務、その他センター全体の運営管理のための各

部門間の連絡調整事務などを行っています。昨年行った福祉サービス第三者評価関係の事務や十八年度の「事業概要」の作成も庶務係が取りまとめを行っています。また、センター内での忘れ物や落とし物も最後は庶務係で保管しますので、お問い合わせください。いろいろな分野で利用者様や職員の皆さんと関わっていますが、今後とも皆さんとともに気持ち良く仕事ができるようにがんばってまいりますので、よろしくお願いいたします。

医事係

医事事務室は、正面玄関を入って直ぐ右側のカウンターの奥にあります。この施設を利用される方が一番最初に訪れる場所でもありませんので、いわばこの施設の顔といったところです。医事部門の仕事は、先ずは、患者様の受付業務から始まり、電子カルテ等への患者情報登録、利用者負担金や医療費の窓口徴収事務、健康保険等の診療報酬請求事務、区市町村への短期入所介護給付請求事務など施設の収入に係る業務を担当しております。その他にも入所者の年齢別・居住地や収入の行為別収入などの統

計事務、インシデント・アクシデント・レポートの集計分析などの医療安全管理対策、更に、感染予防対策、褥瘡予防対策の委員会運営を担当しております。これらの業務は、常勤職員三名とニチイ学館の十数名のスタッフとで日々、取り組んでおり、施設の顔として相応しい職場づくりに努めるよう心掛けています。

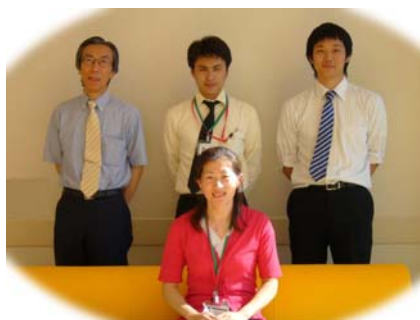


当院正面玄関脇に咲いていた日々草

用度係

私たち用度係は、四名の職員で構成されている係りです。主な業務内容は、建物管理業務、廃棄物の処理業務などの委託契約にはじまり、修繕の契約、医療機器、衛生材料の購入、事務機器、消耗品の購入などです。当センターの環境整備についても注意しているつもりですが、他部門の方々も、お気づきの点は用度係スタッフまでご相談ください。経験も浅く「迷惑をおかけする」ともあるかと思いますが、現場の方々

の業務が円滑に進むよう、これからも努力して参りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



用度係のスタッフ

地域療育支援

地域療育支援室は地域療育支援係と通所係で構成されています。今回紹介する地域支援係は、医療ソーシャルワーカー四名、心理二名の職員体制です。場所は総合受付前の利用者様にとって相談しやすい場所になっています。相談される方も、東部を初めて利用しようと考えておられる方から現在入所されている方、それ以外にも地域の施設や学校の関係者の方々と幅広くなっています。相談の内容も受診の相談、短期入所、手帳や補装具、療育内容についての相談など多岐にわたっています。特に、東部療育

センターが開設後間もないこともあり、受診についての相談が多くなっています。更に、障害者についての自立支援法が成立し、児童福祉法が改正になり入所の制度が契約に変更になった事等から制度の説明や契約などの業務が多くなっています。相談を受けると、院内外の関係者と問題解決にむけて連絡調整を行っています。これ以外にもボランティアの受入、苦情要望等の受付、設備の地域開放の窓口と幅広い業務を行っております。問題解決の主役はあくまでも「利用者様」、地域療育支援室はあくまでも、その「お手伝い」常にこのことを念頭において業務をしていきたいと思っております。

トピックス

平成十八年 六月以降
に東部療育センター内で
起きた様々なことを、紹
介させて頂きます。
今回は、永続勤務の表
彰の模様と、かもめ分教
室についてです。

かもめ分教室

センター開所に伴い二〇〇六年度「訪問
学級」による施設内教育が開始され、翌二
〇〇七年度に「かもめ分教室」となりまし
た。現在十九名(小学部十名、中学部三名、
高等部六名)が学んでいます。ベッドサイ
ドでの一対一指導を基本としながらも、四階
教室やプレールーム、病棟内指導室を利用
して、集団活動やダイナミックな活動にも
取り組んでいます。学習内容は、自分の体
を少しでも楽に感じとれるような体の取り
組みや揺れの活動、音楽や様々な素材、感
触を味わう活動など多岐に渡ります。子ど
もたちが、「おや、なんだろう」「あつ、そ
うか」「なるほど、わかった」「もつとやり
たい」「こつちがいい」という内面や要求が
引き出されるように、実感を伴った体験が
積み重ねられるように努めています。子ど
もたちは、みな色々な表現(しぐさ、表情、
呼吸、緊張など)で、たくさんのお話を伝え
てくれます。回りの人たちとのやりとりを
深め、思いを伝え合う喜びを大きくしなが
ら、日々輝いた毎日を送っています。ぜひ、
皆さんも授業を見に来てください。

永年勤続表彰

この度、療育部看護長の野口千恵子さん
と保育士の指田和美さんのお二人が、(社
法)日本重症児福祉協会から十九年度の永
年勤続表彰を受けました。

お二人は東大和療育センターや東部療育
センター等での在職十年を越え、今回の表
彰となったものです。本当におめでとうご
さいました。これからも健康に留意され、
がんばっていただきたいと思います。



かもめ分教室の先生たち



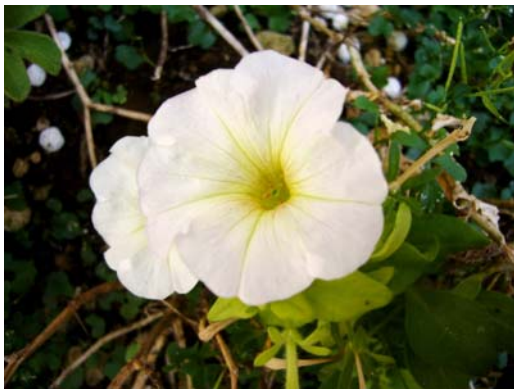
表彰の様子

新人紹介

今年から、当センターへ新しく就任され
た方の紹介を致します。今号は、本澤医師
と寺岡医師係長です。

今年四月から、この施設で仕事をさせて
いただいております寺岡です。今から二十
数年前に当時の衛生局公衆衛生部において
重症心身障害児(者)施設への措置入所を
担当していたことがあります。この時に施
設監査も担当してましたが、某施設長(元
技監)から「書類審査に多くの時間を費や
すより、入所者一人ひとりの顔をよく見て、
表情が明るいか、眼が輝いているか、生き
活きしているか、といったところを自分の
目で確認しなさい。」と叱咤されたことが、
今でも心に刻まれております。常に「今、
何が大事なのか」ということを基本スタン
ドとして、仕事に取り組んでいきたいと思
います。よろしくお願ひします。

平成十九年四月一日から東部療育センタ
ー小児神経科に着任した本澤志方と申しま
す。
今まで、一般小児、NICU、小児神経
を経験してまいりました。患者様にやさし
い医療を目指しています。
北海道が大好きな私です。北海道の自
然・食べ物・ドライブしやすい広い道路が
特に好きです。
よろしくお願ひします。



当院正面玄関脇に咲いていた
ペチュニア



本澤先生が撮影した北海道の写真です。
写真右 富良野の写真
写真左 積丹半島の写真

今まで風邪薬などは大人であれば三錠というような決め方で、個人によってお薬の量が変わることはあまりありませんでした。個人によって体格の良いひとみれば、そうでない人もいます。年齢によって体の中の水分の量も違いますから、当然薬の体内で存在する量にも差がでます。また近年、肝臓の中の薬を代謝する酵素であるCYPというものがあることがわかってきました。

そのCYPにもいろいろな種類があり、個人のもつ遺伝子によって働きの活発な人とそうでない人がいることもわかってきました。そこで、現在はオーダーメイド医療といわれる個人にあった薬剤の選択、投与量を作っていくという動きになってきています。

たとえば抗痙攣剤であるフェニトインという当センターでもよく使用されている薬剤を例にとりて説明します。この薬は非線形薬剤といって薬の量をわずかに増やすだけで急激に血中濃度が増加する薬剤です。

血中濃度とは血液の中にどのくらい薬が入っているかを表す値です。一回の採血でどのように薬物に変化するかをみることで、その血中濃度シミュレーションというグラフです。グラフ1は日本人でんかん患者の二症例におけるフェニトイン投与量と血中濃度の関係を示したものです。●が変異を持つ人、○が変異を持たない人です。

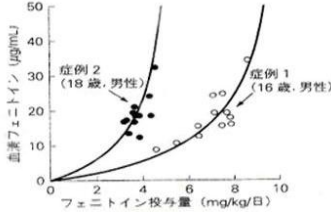
●の人は投与量が4mg/kg/日(一日

Cutting edge

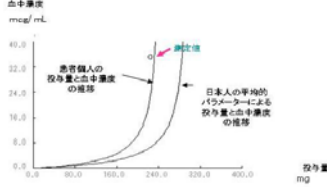
抗痙攣剤の血中濃度の予測

あたり体重1kgに対して薬の量が4mgということ)のところ、で急激に血中濃度が上昇することがよくわかると思っています。●の人は薬物に反応しやすいのです。

グラフ2は当センターの利用者様と日本人の母集団の平均を比較したものです。日本人の母集団の平均からかなりずれていることがよくわかると思います。これをペダという解析ソフトを用い、その個人にあったシミュレーションを描くことによって、個々の血中濃度の変化が表せるのです。またこのシミュレーションはフェニトイン以外の薬剤でもできます。一日の中で血中濃度の変化する薬剤もありますので、血液検査の際採血時間を記入していただくことも大切です。シミュレーションがオーダーメイド医療に役立つ一つの手段であることがおわかりいただけたと思います。



グラフ1



グラフ2

院内研修

療育部では、年間研修計画を策定し計画的に研修を実施しています。今回、部内研修の一環として六月二十五日実施された「急変時の対応」を、紹介します。講師は当院の医師・看護師でした。講義では最新の救命救急方法と、ケアのポイントが話されました。また、夜勤帯での急変場面を想定したシミュレーションを行い、研修生に実技指導が行われました。医師、看護師、保育士・児童指導員それぞれが協力し合い、急変場面の発見から連絡報告、心臓マッサージ、人工呼吸、ME機器の準備、気管内挿管介助、環境の整備、記録、ご家族や他の利用者様への対応等方法について、個々の役割を通して学びました。

今回は二時間という短い時間でしたが、次年度は時間や場面設定等を十分検討し、より実的な体験を全員ができる研修を企画したいと考えています。



講師の指導を真剣に聞いている研修生



心臓マッサージの研修風景



挿管介助の研修風景

編集後記

わか草第四号をお届けします。かもめ教室の開室、永年勤続表彰、計画的な院内研修など東部療育センターのハード・ソフト両面の日々の充実が紙面にも現れてきています。わか草は第四号ということでも最初の一年間の役割を終えました。今後も東部療育センターのさらなる充実をわか草の紙面で十分表現できるように、皆様と協力して紙面を作っていくと思います。寄稿してくださっている皆様、読者の皆様、編集委員の皆様、一年間どうもありがとうございました。